

「ほやねさんフォトエッセイ」を募集します

11月号から、「ほやねさんフォトエッセイ」を募集します。コロナに負けない我が家のアイデアや、思わず癒される、元気をもらえる…。そんな写真にタイトル・エピソード・ペンネーム・ご連絡先を添えて、直接または郵送、Eメールでまちづくり推進課へご提出ください。

●郵送先：〒509-5192(住所不要) ●Eメール：machisui@city.toki.lg.jp

※写真をご投稿いただく際には、肖像権等、プライバシーには十分に配慮してください。

※応募作品が多数の場合は、選考の上掲載します。作品は返却しません。

作品例 ☆おうちに秘密基地出現！

コロナで学校が休校中、おうちに秘密基地が出現！おうちにある鉄棒、タオルケット、段ボール、ガムテープ、洗濯バサミなどで作っていました。中にライトを持ち込み、本を読んだり、ブロックで遊んだり。大人は立ち入り禁止です…。子どもたちの自由な発想で、子どもたちだけの空間を作り、楽しんでいました。

子どもの創造力のおかげで、自粛生活中もにぎやかな我が家です♪片付けは大変ですが…。

ペンネーム：tommy



問 まちづくり推進課（内線313）

ようこそ手話の世界へ

福祉課（内線217）



かんたん手話講座 手話で話そう！

台風が



斜めに両手を振り下ろす



心配です



5指を胸にあてる

ろう者が生活で
困ること【暮らし】

日常生活のほんのささいなことだから、誤解を受けるろう者が多いことをご存じでしょうか。

例えば、コンビニでお弁当を買おうとした時、レジの店員さんに「お箸何膳ご入用ですか？」と尋ねられたのですが、質問されたことを知らずに立っているろう者の姿を見て、「無視された」と誤解した店員さんに不愉快な表情をされたことがあったそうです。

新型コロナウイルス感染

スク下の現在は、どこのお店も透明フィルムを挟んでの接客なので、マスクを外したとしても蛍光灯が透明フィルムに反射して、口形が分かりにくくなっています。聴覚障害者と知らずに声を掛けて、「無視された」と嫌な気持ちになる前に少しだけ考えてみてください。「もしかしたら、耳が聞こえない人かな？」と思いついて、顔を見て声を掛けてみてください。誤解が解ければ、コミュニケーションがさらに広がるきっかけになるはずです。